



平成31年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成31年1月25日

上場会社名 株式会社スペースシャワーネットワーク 上場取引所 東
 コード番号 4838 URL <https://www.spaceshower.net/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 近藤 正司
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 北島 直樹 TEL 03-3585-3242
 四半期報告書提出予定日 平成31年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第3四半期の連結業績（平成30年4月1日～平成30年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第3四半期	11,163	△2.7	231	△61.9	244	△60.8	157	△60.4
30年3月期第3四半期	11,472	4.4	607	56.8	624	52.2	396	55.8

(注) 包括利益 31年3月期第3四半期 157百万円 (△60.4%) 30年3月期第3四半期 396百万円 (55.9%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第3四半期	13.86	—
30年3月期第3四半期	35.02	—

(参考) 持分法投資損益 31年3月期第3四半期 0百万円 30年3月期第3四半期 11百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第3四半期	7,735	4,442	57.4
30年3月期	8,045	4,398	54.7

(参考) 自己資本 31年3月期第3四半期 4,442百万円 30年3月期 4,398百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
31年3月期	—	0.00	—		
31年3月期(予想)				10.00	10.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成31年3月期の連結業績予想（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	14,833	△1.7	249	△57.8	277	△56.5	163	△51.1	14.39

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）－、除外 一社（社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年3月期3Q	11,330,800株	30年3月期	11,330,800株
② 期末自己株式数	31年3月期3Q	3株	30年3月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年3月期3Q	11,330,799株	30年3月期3Q	11,330,800株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、堅調な企業収益や、雇用環境改善の維持などを背景として、引き続き緩やかな回復基調で推移いたしました。米国の通商政策に端を発する米中貿易摩擦問題への懸念や、海外の政治情勢不安が強まり、金融市場が不安定に推移するなど、先行きの不透明感が強まっております。

また、当社グループの事業に関連する、放送、音楽、エンターテインメントの各業界においては、市場環境や消費者ニーズが急速に変容を遂げております。とりわけ、デジタル化やグローバル化の進展に伴う事業環境の激変は、当社の既存ビジネスである有料放送事業や音楽CD/DVD販売事業においても大きな影響を及ぼしつつあります。

こうした環境の下、当社グループでは、創業以来行ってきた音楽映像コンテンツの企画制作及び有料多チャンネル放送プラットフォームにおける音楽専門チャンネルの運営をベースとしつつ、ライブイベント展開、デジタルコンテンツ制作や各種デジタルサービス展開、音楽レーベルからアーティストマネジメントに至る展開まで、当社グループが有するあらゆる機能を複合的に活用しながら、多様なメディア・コンテンツ事業を展開し、総合音楽エンターテインメント企業へと事業転換を図ってまいりました。また、ファンクラブ事業を展開するコネクトプラス(株)、コンセプトカフェ運営を行うインフィニア(株)、映像制作プロダクションの(株)セップ、老舗インディーレーベル運営の(株)Pヴァイン等、これら連結子会社とともに、新たな分野での成長施策の推進、事業領域の拡大に向けた企業グループ経営を推進しております。

当第3四半期連結累計期間においては、平成30年10月30日に、Billboard JAPAN、国内主要音楽ストリーミングサービス11社との連携により、リスナーを主役として新しい音楽のヒットやムーブメントを作るプロジェクト

「NOW PLAYING JAPAN」の第2弾ライブを開催、各ストリーミングサービスにおいて、ライブ出演アーティスト自身によるプレイリスト公開など、イベントと連動した企画を展開いたしました。

また、当社所属アーティストの「Suchmos(サチモス)」が、大晦日の風物詩『第69回NHK紅白歌合戦』に出場を果たし、さらなる幅広い世代への認知拡大を実現することができました。加えて、平成30年11月、香港で行われた『Clockenflap Festival 2018』、平成30年12月、タイで行われた『PEPSI PRESENTS BIG MOUNTAIN MUSIC FESTIVAL 9』へ出演し、海外アジアマーケットにおける認知獲得への布石を打つことができました。

一方で、音楽ソフト関連においては、CD/DVDパッケージ商品販売市場の縮小や、デジタル音楽配信市場における、定額聞き放題のサブスクリプション型ストリーミングサービスの拡大に伴う、一曲単位でのダウンロード販売の急速な減少といった市場環境の変化に加え、対前年同期比でヒットタイトル数が減少したことなどにより、低調な推移となりました。引き続き、サブスクリプション型ストリーミングサービスを始めとする成長市場でのポジショニング確立に向けた取り組みや、ヒットの創出に向けた取り組みを推進してまいります。

これらの取り組みの結果、売上高は11,163,430千円と前年同期比309,463千円減(同2.7%減)となりました。また、営業利益は231,611千円と前年同期比376,357千円減(同61.9%減)、経常利益は244,987千円と前年同期比379,703千円減(同60.8%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は157,060千円と前年同期比239,763千円減(同60.4%減)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

①メディア・コンテンツ セグメント

当セグメントにつきましては、音楽チャンネルの運営を中心に関連イベントやコンテンツプロデュースを展開するSPACE SHOWER TV事業、アーティストマネジメントからレーベル及びディストリビューションまでアーティストビジネスを360度展開するSPACE SHOWER MUSIC事業、音楽周辺のポップカルチャー領域を開拓するSPACE SHOWER ENTERTAINMENT事業及び「WWW」「WWW X」を運営するライブハウス事業の4つの事業ユニットを中心に、連結子会社(株)Pヴァインのレーベル事業、コネクトプラス(株)のファンクラブ事業、インフィニア(株)のコンセプトカフェ事業等を加えて、各事業分野の成長施策の推進にあたっております。

SPACE SHOWER TV事業においては、主に、当社主催イベント「SPACE SHOWER SWEET LOVE SHOWER 2018」が、前年に引き続き過去最大の動員を達成などにより売上高は増加しましたが、有料放送収入におけるスカパー！サービスの「スペースシャワーTV」チャンネルのHD(高精細度)化にともなう衛星回線費用の増加、デジタル動画配信サービスや新規事業への先行投資コストが増加したことにより前年同期比で減益となりました。

SPACE SHOWER MUSIC事業においては、サブスクリプション型ストリーミングサービスの普及に伴いデジタル配信収入が増加したものの、楽曲のヒットタイトル数が減少したことにより、パッケージ販売収入が減少し、前年同期比で減収減益となりました。

その他、ライブハウス事業、インフィニア(株)が運営する「@ほお〜むカフェ」につきましては、引き続き好調に推移いたしました。

この結果、当セグメントの売上高は 10,116,125千円と前年同期比 250,239千円減（同 2.4%減）となり、経常利益（セグメント利益）につきましても 205,033千円と前年同期比 361,699千円減（同 63.8%減）と、減収減益となりました。

②映像制作 セグメント

当セグメントにつきましては、大型LIVE映像制作受注が、回復傾向にあるものの、前年同期比で減少したことなどにより、売上高は 1,047,304千円と前年同期比 59,223千円減（同 5.4%減）となりましたが、利益率が向上したことにより、経常利益（セグメント利益）は、72,418千円と前年同期比 19,922千円増（同 38.0%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、主に仕掛品が 144,282千円、その他（流動資産）が 128,035千円、投資有価証券が 103,887千円、工具、器具及び備品が 81,147千円増加した一方で、受取手形及び売掛金が 383,199千円、現金及び預金が 336,763千円、リース資産が 55,534千円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ 309,828千円減少し、7,735,825千円となりました。

負債につきましては、主に退職給付に係る負債が 44,404千円増加し、一方で未払法人税等が 141,680千円、賞与引当金が 131,202千円、その他（流動負債）が 62,848千円減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べ 353,578千円減少し、3,293,657千円となりました。また、純資産は利益剰余金が前連結会計年度末に比べ 43,752千円増加したことなどにより、4,442,168千円となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年3月期通期の連結業績予想につきまして、平成30年4月27日付に公表しました業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、平成31年1月25日発表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,916,646	2,579,882
受取手形及び売掛金	2,109,022	1,725,822
商品	233,763	252,013
仕掛品	176,614	320,896
貯蔵品	7,367	11,399
その他	177,757	305,792
貸倒引当金	△54,335	△51,654
流動資産合計	5,566,834	5,144,152
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,213,027	1,230,840
機械装置及び運搬具	41,955	41,955
工具、器具及び備品	537,190	618,337
土地	72,455	72,455
リース資産	264,532	208,997
減価償却累計額及び減損損失累計額	△1,181,977	△1,181,633
有形固定資産合計	947,185	990,953
無形固定資産		
のれん	146,320	108,678
商標権	162,843	153,770
ソフトウェア	108,174	107,776
その他	7,291	13,825
無形固定資産合計	424,629	384,050
投資その他の資産		
投資有価証券	267,152	371,040
敷金及び保証金	294,688	299,137
繰延税金資産	479,824	444,312
その他	98,521	137,007
貸倒引当金	△36,296	△36,290
投資その他の資産合計	1,103,890	1,215,207
固定資産合計	2,475,704	2,590,211
繰延資産		
株式交付費	1,146	—
その他	1,967	1,461
繰延資産合計	3,113	1,461
資産合計	8,045,653	7,735,825

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,328,070	1,285,027
リース債務	10,457	13,299
未払金	316,925	272,099
未払法人税等	164,545	22,864
預り金	467,628	480,166
賞与引当金	239,611	108,408
役員賞与引当金	37,225	12,403
返品調整引当金	48,827	62,992
売上割戻引当金	157	214
その他	126,820	63,972
流動負債合計	2,740,268	2,321,448
固定負債		
リース債務	47,749	50,577
退職給付に係る負債	697,580	741,985
役員退職慰労引当金	155,246	173,035
その他	6,389	6,610
固定負債合計	906,967	972,209
負債合計	3,647,235	3,293,657
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,920,579	1,920,579
資本剰余金	977,579	977,579
利益剰余金	1,500,259	1,544,012
自己株式	—	△1
株主資本合計	4,398,417	4,442,168
純資産合計	4,398,417	4,442,168
負債純資産合計	8,045,653	7,735,825

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	11,472,893	11,163,430
売上原価	8,566,189	8,566,432
売上総利益	2,906,703	2,596,997
返品調整引当金繰入額	—	14,165
返品調整引当金戻入額	12,297	—
差引売上総利益	2,919,001	2,582,832
販売費及び一般管理費	2,311,031	2,351,220
営業利益	607,969	231,611
営業外収益		
受取利息	14	14
受取配当金	582	582
持分法による投資利益	11,290	227
受取賃貸料	1,305	1,305
業務受託手数料	4,027	8,855
諸預り金戻入益	3,110	2,721
助成金収入	2,000	300
雑収入	2,608	2,594
営業外収益合計	24,939	16,600
営業外費用		
支払利息	896	638
株式交付費償却	5,158	1,146
為替差損	2,074	1,360
雑損失	88	79
営業外費用合計	8,218	3,225
経常利益	624,690	244,987
特別利益		
固定資産売却益	1,689	—
特別利益合計	1,689	—
特別損失		
固定資産除却損	25,975	2,413
その他特別損失	4,907	—
特別損失合計	30,882	2,413
税金等調整前四半期純利益	595,496	242,573
法人税、住民税及び事業税	218,128	50,001
法人税等調整額	△19,455	35,511
法人税等合計	198,672	85,513
四半期純利益	396,823	157,060
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	396,823	157,060

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
四半期純利益	396,823	157,060
四半期包括利益	396,823	157,060
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	396,823	157,060
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

（セグメント情報）

Ⅰ 前第3四半期連結累計期間（自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	メディア・ コンテンツ	映像制作	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,366,365	1,106,527	11,472,893	—	11,472,893
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	28,310	28,310	△28,310	—
計	10,366,365	1,134,838	11,501,203	△28,310	11,472,893
セグメント利益	566,733	52,495	619,229	5,460	624,690

（注） 1. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去等5,460千円であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 平成30年4月1日 至 平成30年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	メディア・ コンテンツ	映像制作	計		
売上高					
外部顧客への売上高	10,116,125	1,047,304	11,163,430	—	11,163,430
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	56,208	56,208	△56,208	—
計	10,116,125	1,103,512	11,219,638	△56,208	11,163,430
セグメント利益	205,033	72,418	277,452	△32,465	244,987

（注） 1. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去等△32,465千円であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

該当事項はありません。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。